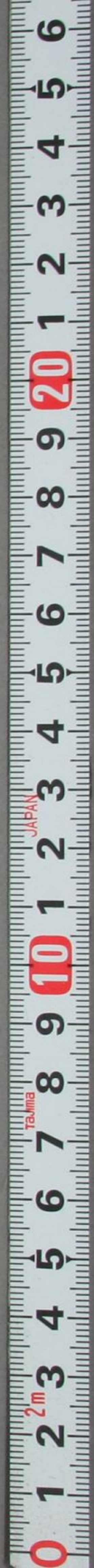


繪入
武家重寶記
二
女
丙

ケ 5
99
2



目録

一

弓矢の始年
諸弓諸矢の圖
弓の射法
塗弓の弓
八法弓の弓
樂極の弓
弓の系本
御冠の弓
武の森重森の弓
法弓石本とある弓

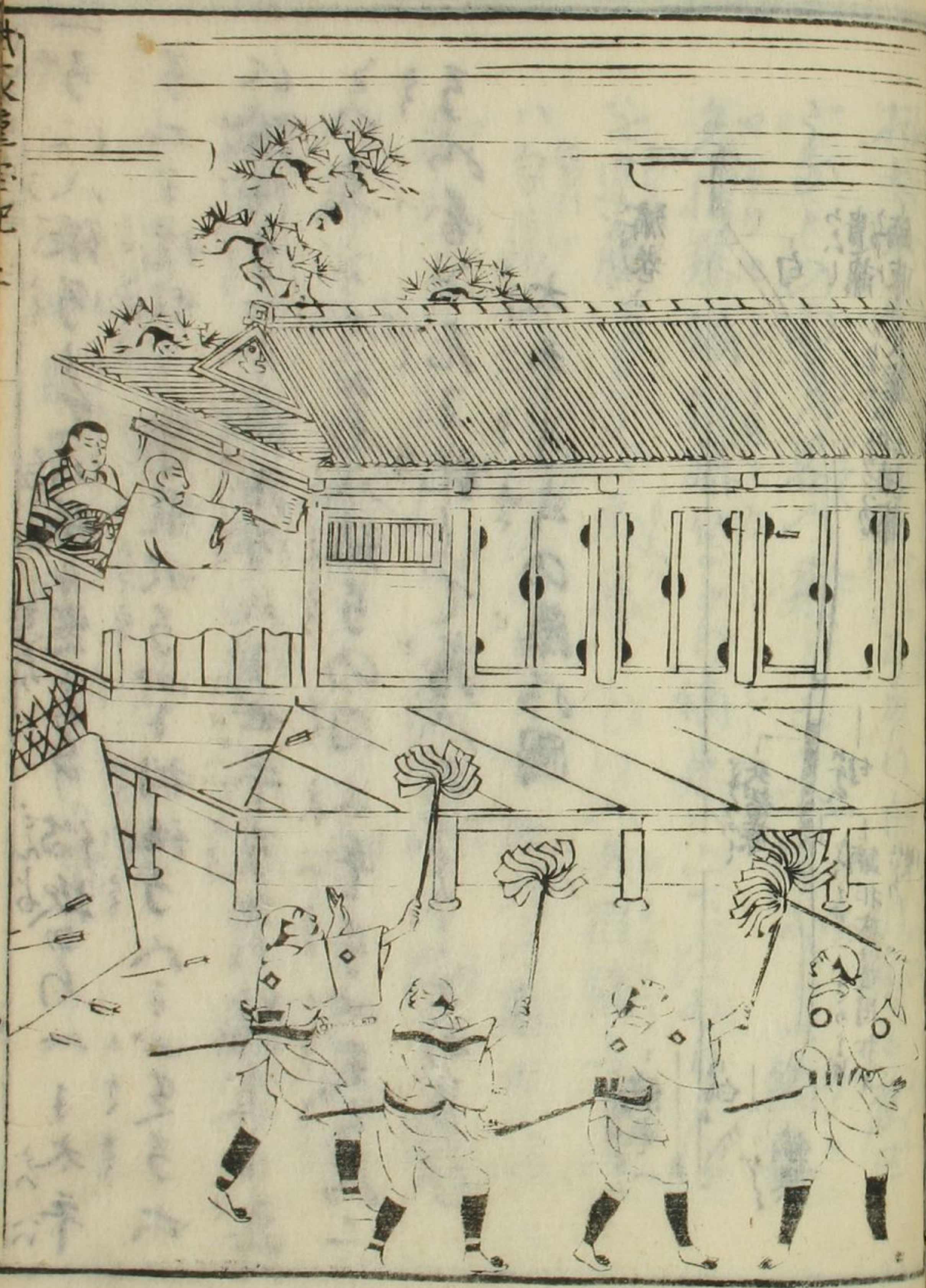
二

弦乃名所とある弓
柄膏の弓
音全の弓
搜の弓
弦輪休法の弓
弦の名目
弦の名目

三

矢乃名所とある弓
秘圖

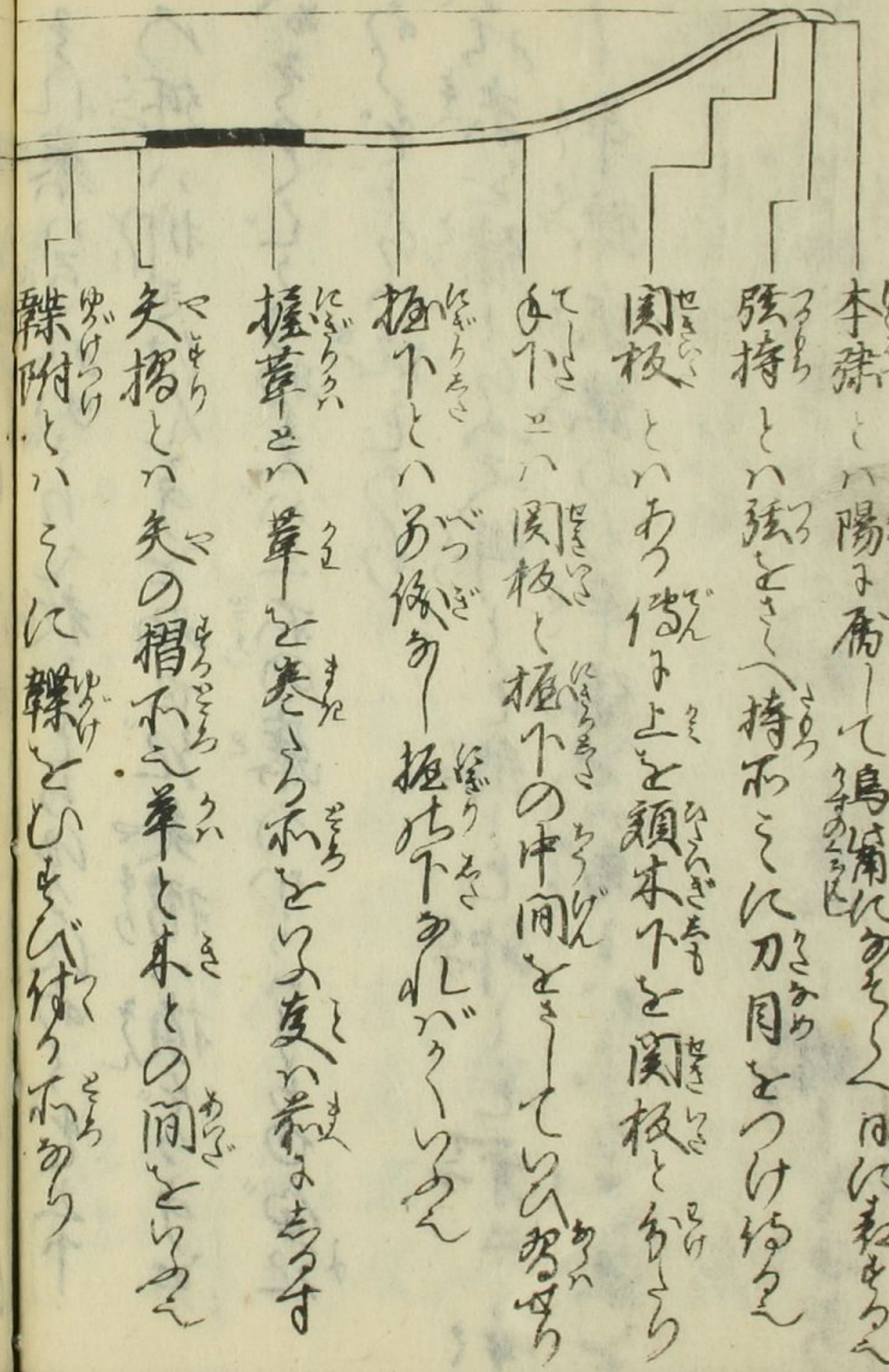




此家重宝言
二
園白秀次公
矢教

右法子何の次射の利因子いびと

張弓名所



小多打とい大多打の對稱あり

大多打といはれ後より又大中とをいふ

押付とい引とらと死け不さめ付くゆあり

相打とい弓と強とね打あさるふあればい

娘及とい額木の末の末に及らるるの四す友也

持とい強りらと止にて持とらぬ合ありん

末隼とい強子屬して虎に子隼一羽に射るる

右藤の名の前にはさるるあ圖川合て一張格とあるべし

ひりひり月六寸

嬰姑首矢音

下作

莖中節

的矢の射ハ射節
矢知ハ捕節

苦

羽餘

矢中節

樹指節

莖或ハ幹元

露葉節

金矢
根多葉
木節

凡矢只此年不河わりて一足下を去れども人の長

短肥瘦付てあひあひなり

一節木の矢より老葉をぬり矢あり根と葉角にて作

一棒角本より羽の矢あり苦矢あり

一的矢より半矢し矢わりこれを陰陽の矢より

節あり一とと半類をいれと式

的矢より平類の形

一差矢より矢牧より矢あり莖の矢莖にて羽の節

二乃羽をよめて矯りる矢より一とと又野指

矢より矢牧の響古矢と云是差矢と云

一縹矢より矢牧の矢より一とと遠矢と云

如り羽の節の才一乃羽をよめて矯りる根のれも本

鋒あり竹の節竹より賞と守

一征矢より征行の矢あり一法子征箭三十隻

一中判より定より矢より守これも征行の矢あり

中より矢より守これも征行の矢あり

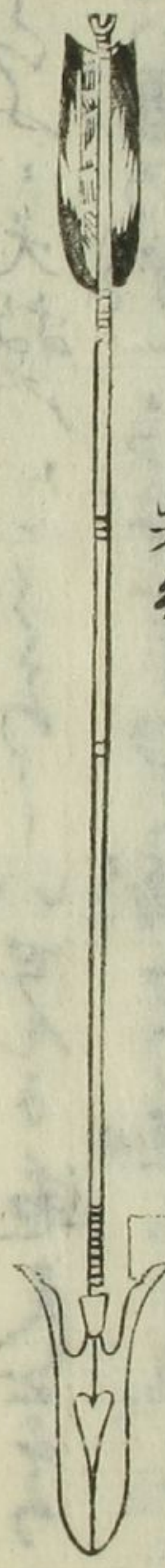
武家軍記

て甲射とらふあり根の半根弐尾等あり

一上射の矢とらふの根矢尾のうら一率二率

そゆらとらふ矢矢あつらひの鑄矢とらゆらり法あり

一尖矢とらふの錫鑿のわら根と挿とらとらふ



尖矢

腸鑿

一鑄矢とらふの鑄の終わつらひの麻角をらふはつらあり

鑄の目と二のわらふらひの三のわらふらひの長と三のわら

せあり根の厚膜をらふ又矢木巻とて鑄の挿と

いらと二のわら立て糸とらひて二分もたは味にて



鑄矢

一厚股とらふの鑄矢と器一と方物ありゆり鑄巻とてを

こゝにぬと糸にきりて石の鑄のうらとせとらあり



厚股

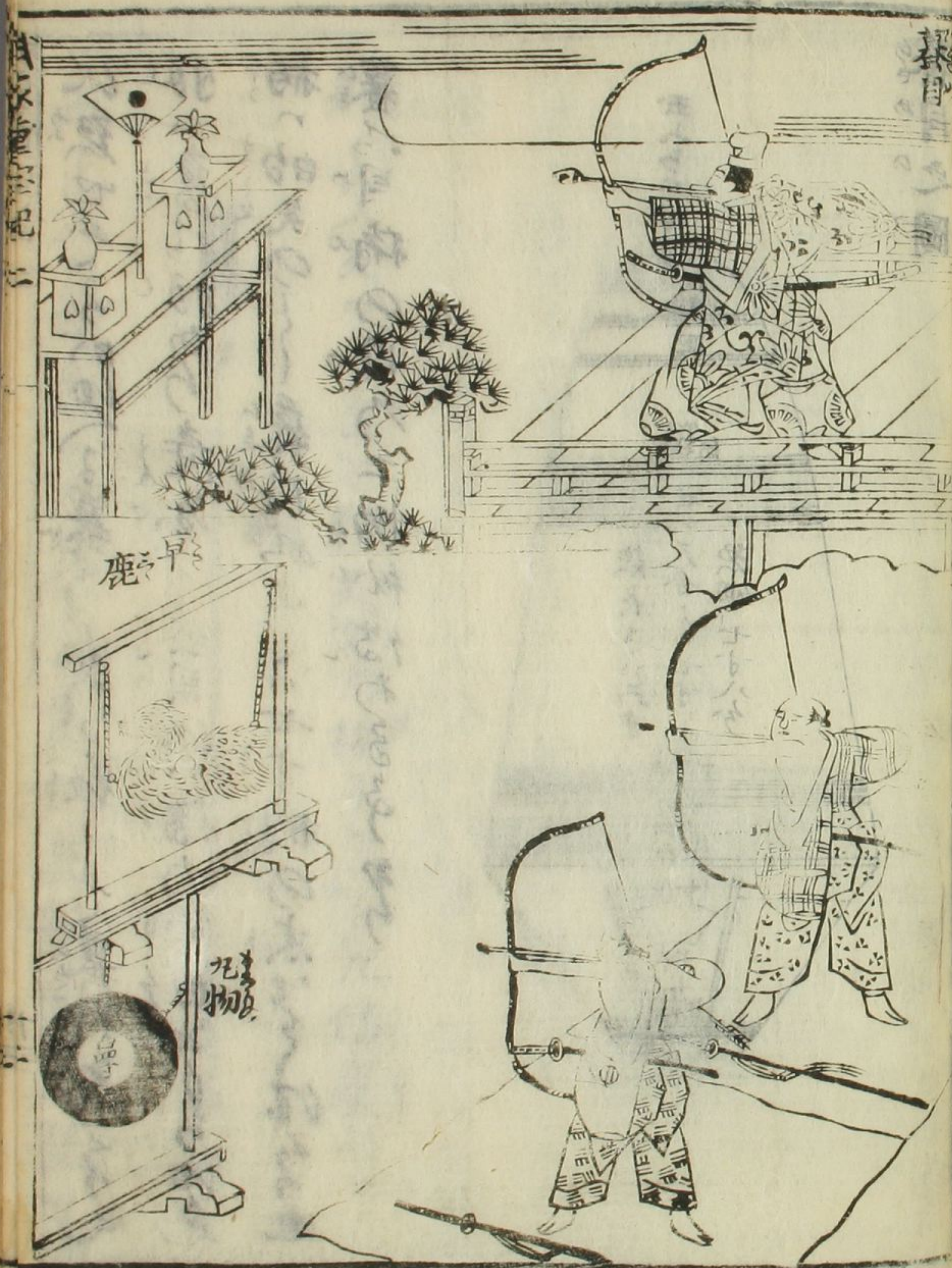
鑄巻

一鑄矢とらふの矢尻を ↓ かくれとらふ鑄とせけ

か矢あり矢尻をらひららふあり

一四目とらふ矢の草葉丸物といふより方一とら四目

目二つあり一と合して四とあり



探目

鹿草

丸物

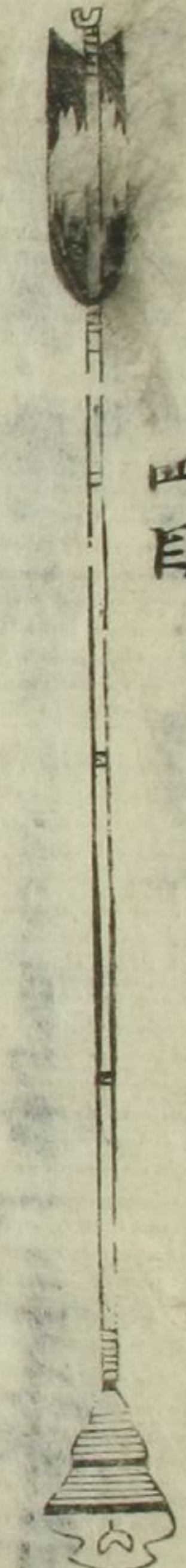
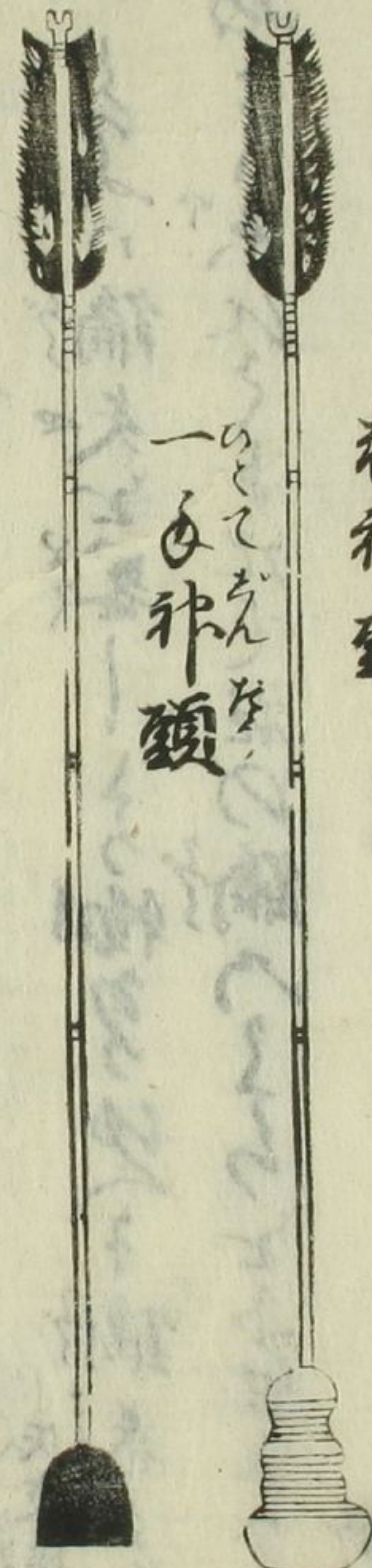
一養目 いさめ 一羽の禰魔ハ調子とくくぬとぬん養乃一羽の調子

一神頭 かみ とらぬの籜の一種あり羽の雉子とくく一或ハ三鳥折
 とく一羽の籜一羽の雉今一羽を深眼あてりゆふ
 のり眼とくくしてそのまぐりゆふ也救神頭一羽の調子

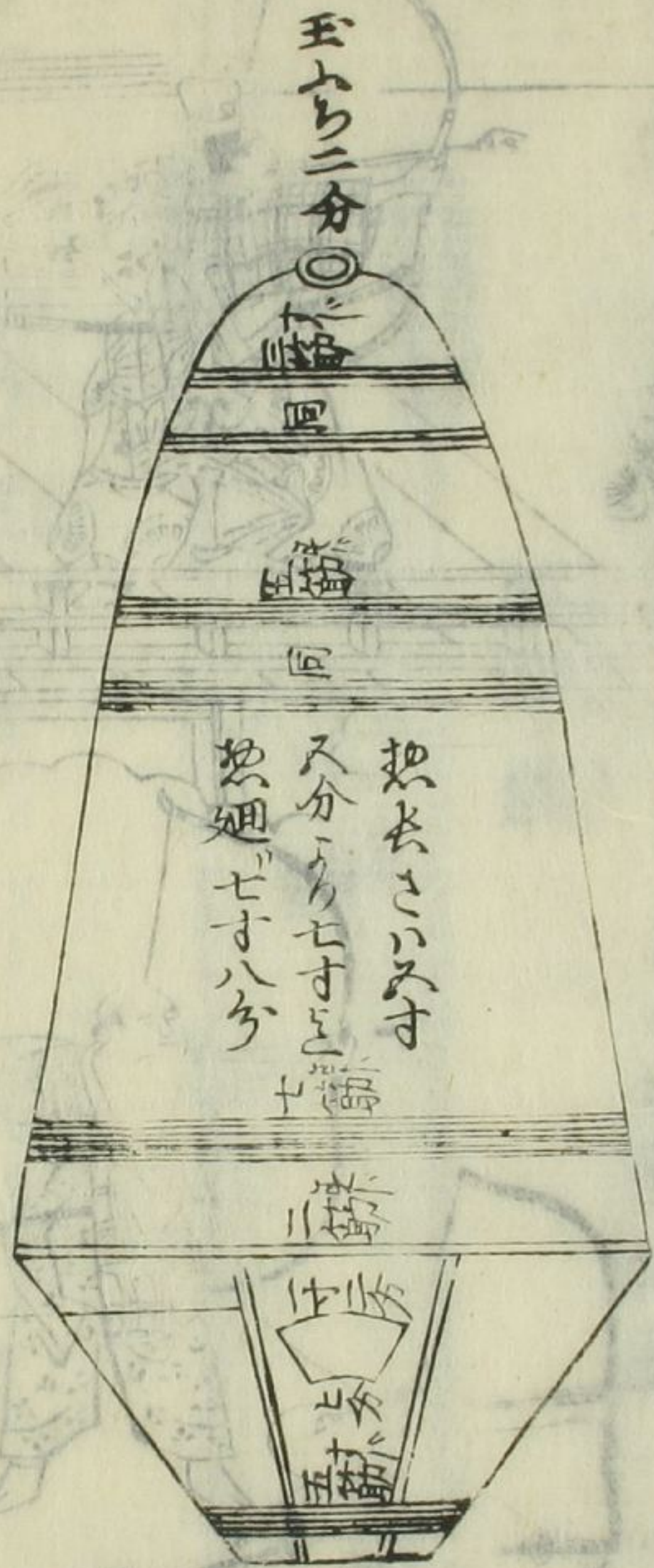
救神頭

一羽の神頭

四目



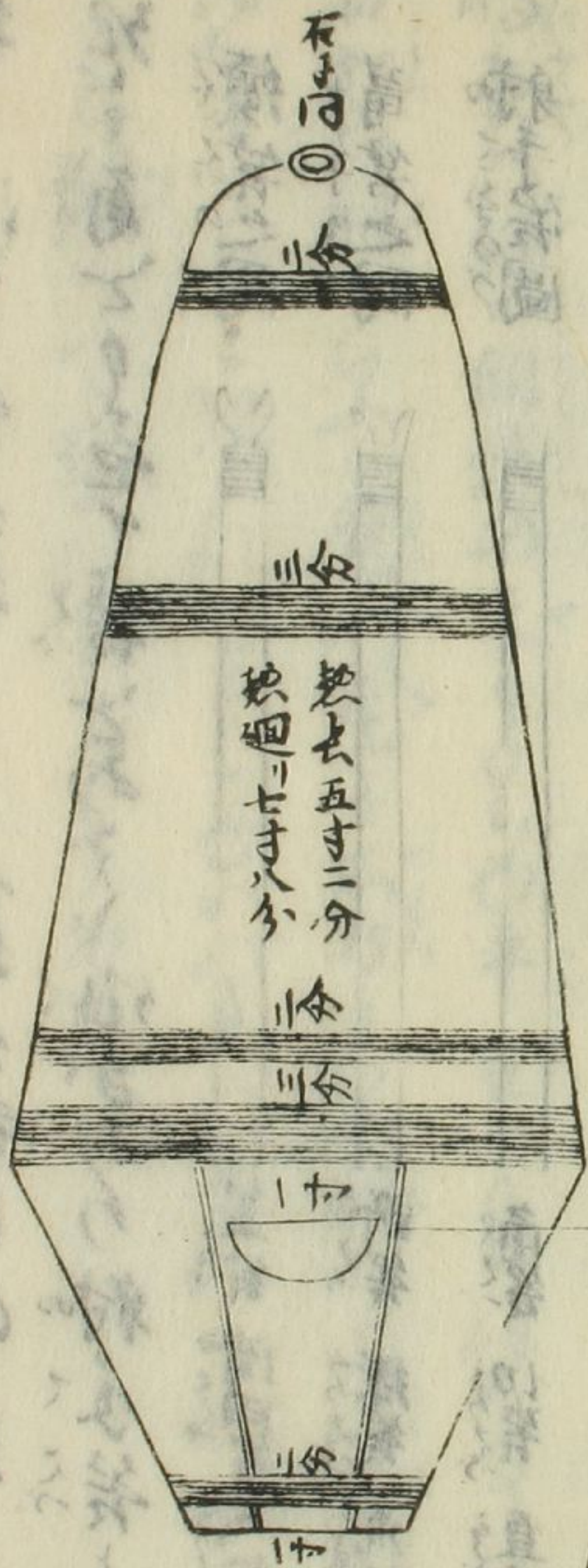
に魚也がらびゆり子蒸う一丈を裁して蒸月とつるん
 羽の鳥の羽あり産名の蒸月にいづれか白とらゆり
 柄の的矢のくく蒸月此より七寸柄の木とてはる也
 蒸月目柄の目乃二物松竹わさりあり



蒸月之圖

自柱 竹の角

尺は五



一冊の又矢のあ多と射矢の根子らいつた指誤わり

冊

一籠のふい箒葉のり篋子白篋拭篋節陰篋焦篋



矢筈皮目塗筈流筈馬筈ありておくあり

一筈といふは箭の弦とてうろたへて續筈の的矢角本神頭

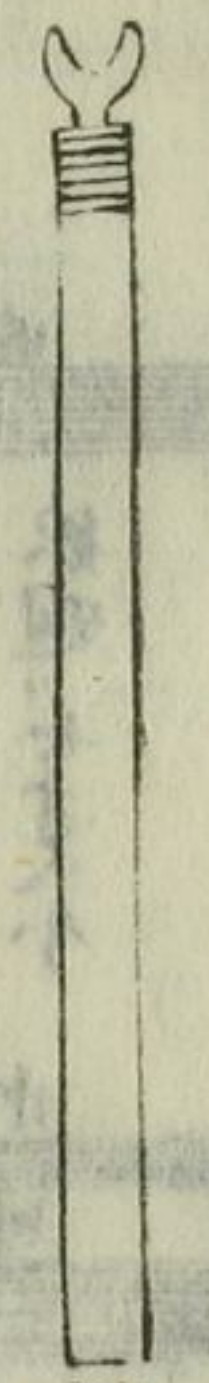
筈の筈のり節筈とも差筈とも滑田筈とも皮目

とのこもへ箭筈といふは征矢よりしる竹の箭をさへ

筈子ばうろ又柔筈ともよ近竹利用に死して筈

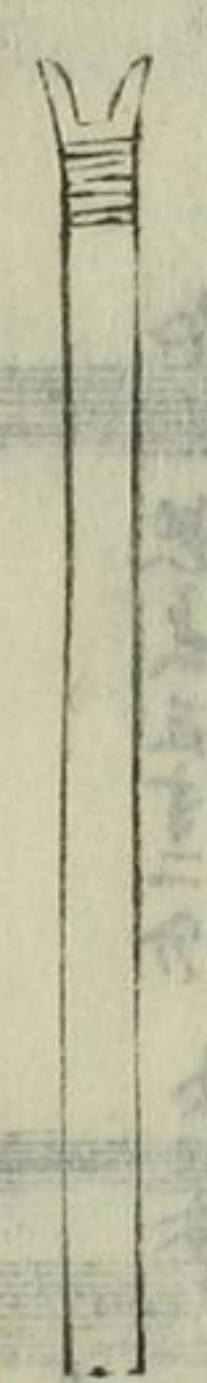
死す角とりてせて筈とありく征矢あり射矢筈といふ

續筈之圖



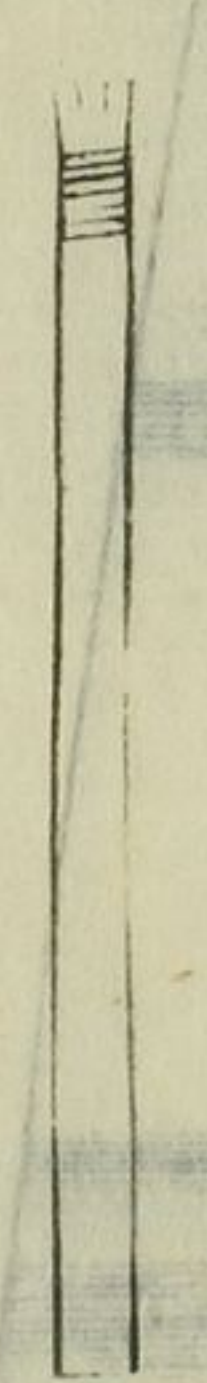
是筈滑田筈入筈節筈

箭筈之圖



野筈 練筈 丸筈

射手筈之圖



角筈 切筈 直筈

一羽の筈とてと手筈の羽とて美眼といふ筈は眼といふは眼のさ

あつゝの緒の幸白羽乃靉降山維尾尾筈とりらゆ

鴨氣乃眼の相伏の矢よりしる平生のしるゆりや

石打の羽といふは筈の尾も石打といふは眼つ

ゆもとりしるれといふはつまの多れも石打といふ

とも別して筈にりりりあり

一橋といふ矢を製するあり新とも征ともすへ一橋

樵地といふは又屯地利地利地をいふもあり

羽幸之圖

凡五十枚



文家生



小切生



切生



霜降



筆莖



本白



小中黒



大中黒



大中白



練白



虎生



摺生



翠生



斑摺生



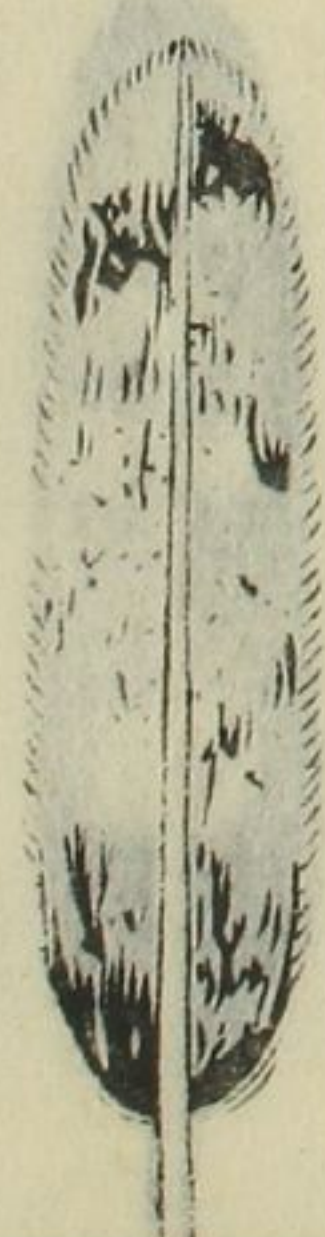
鳴切生



逆羽尾



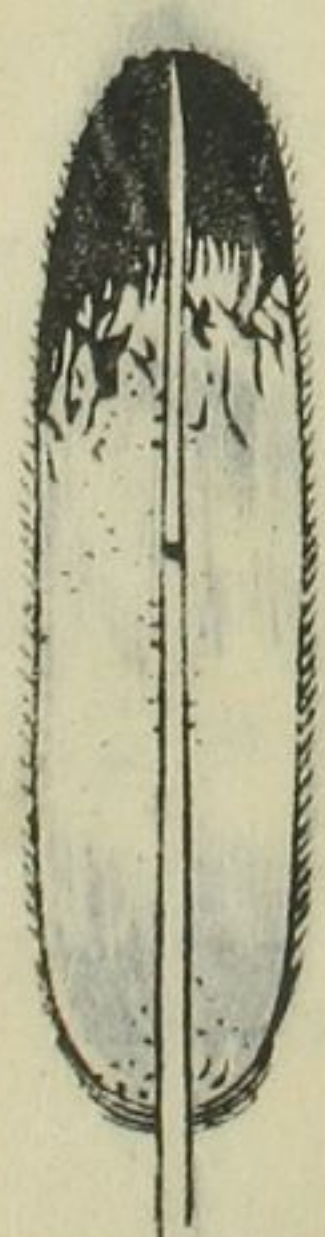
胡麻摺



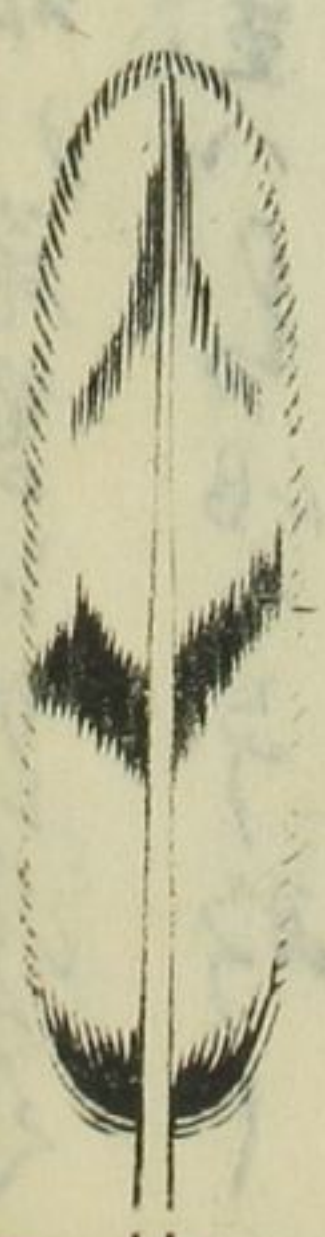
本黒



練黒



摺中黒



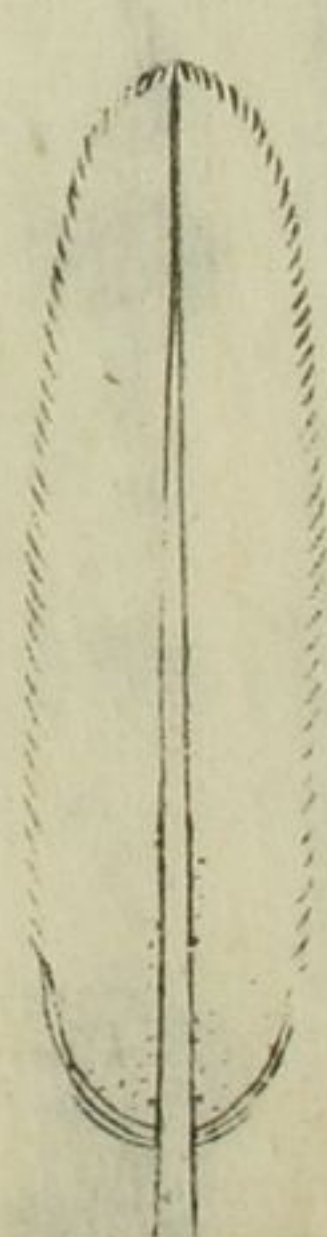
小中白



摺中白



白尾



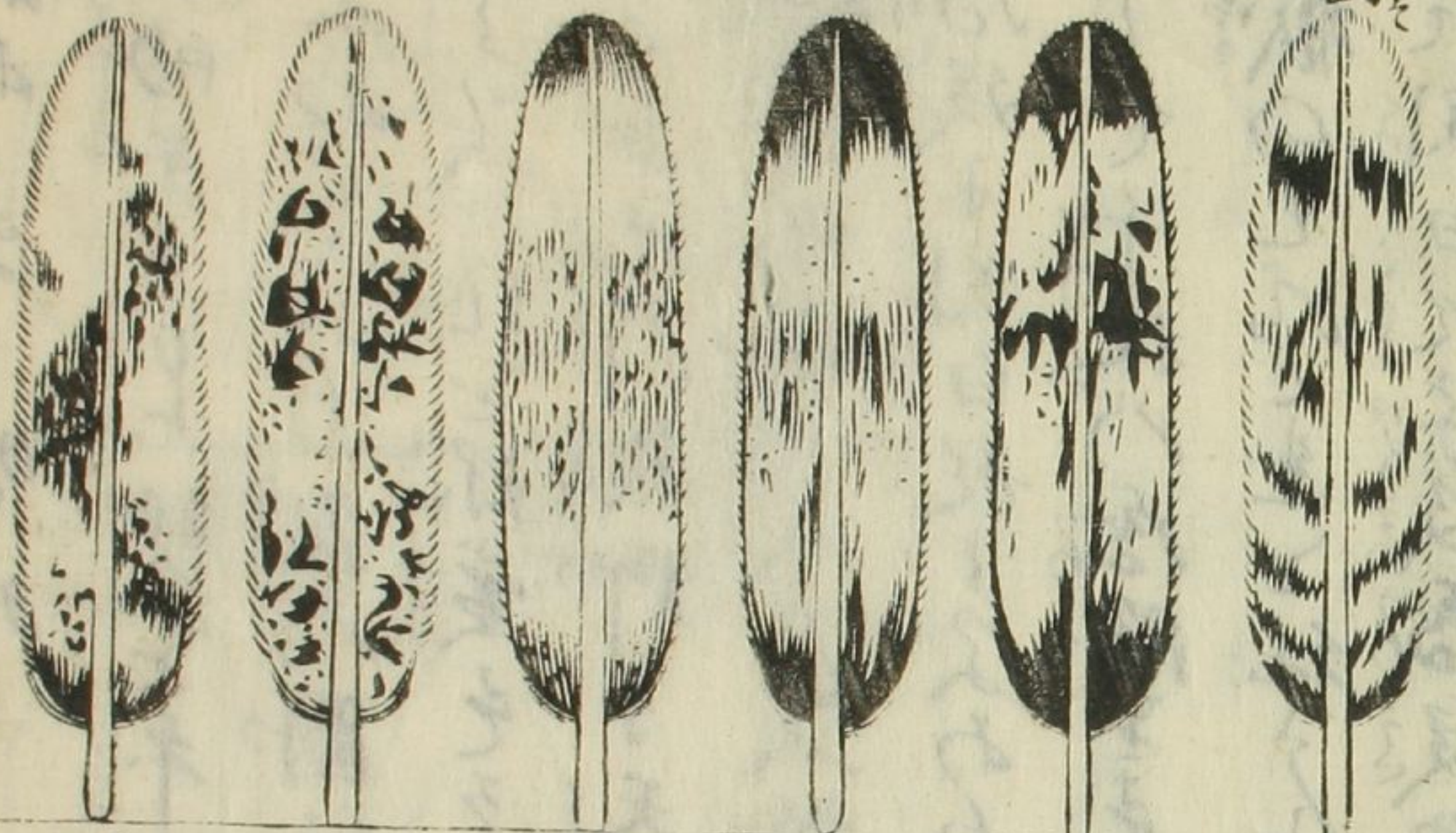
糸生



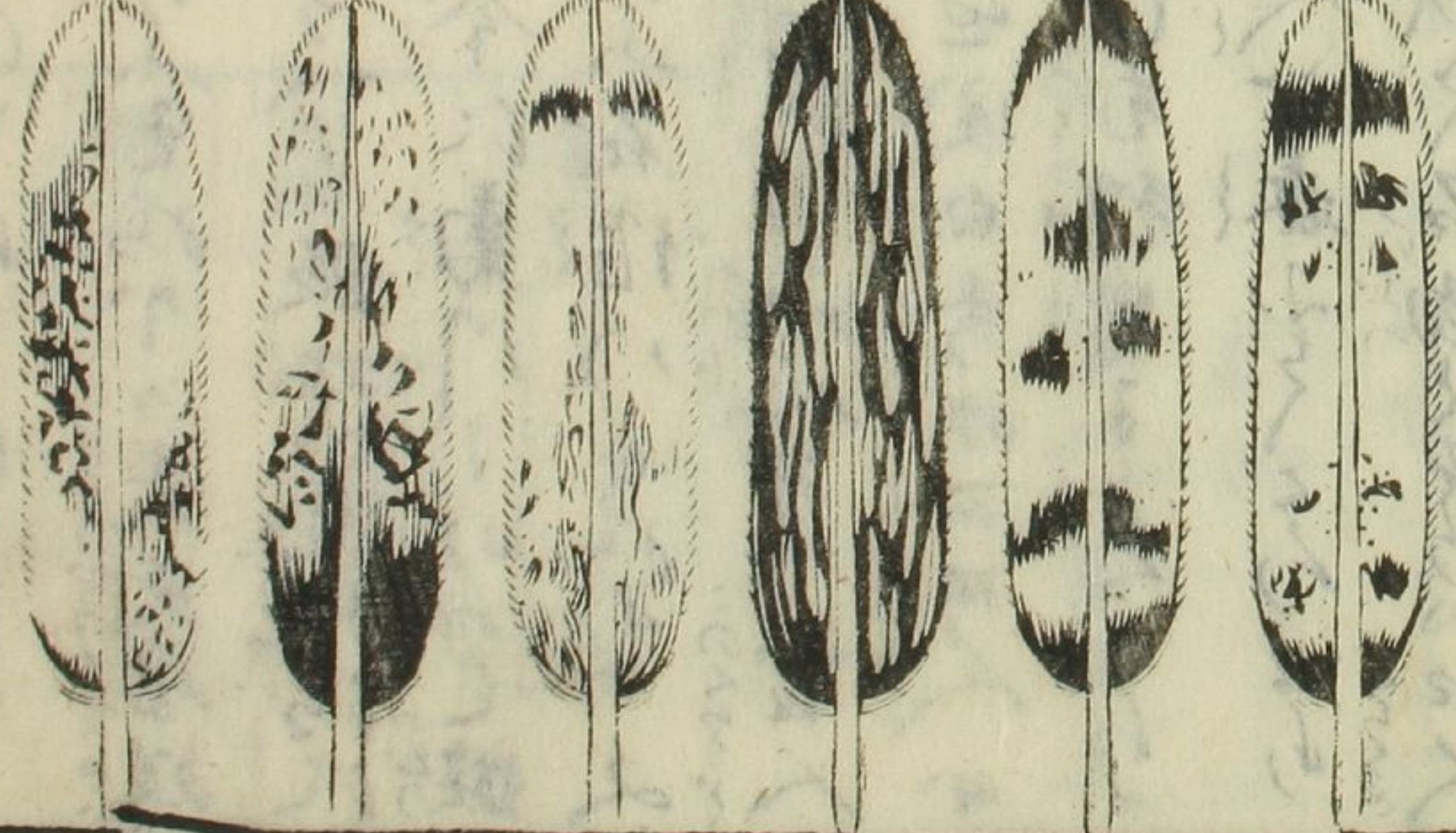
鳴生



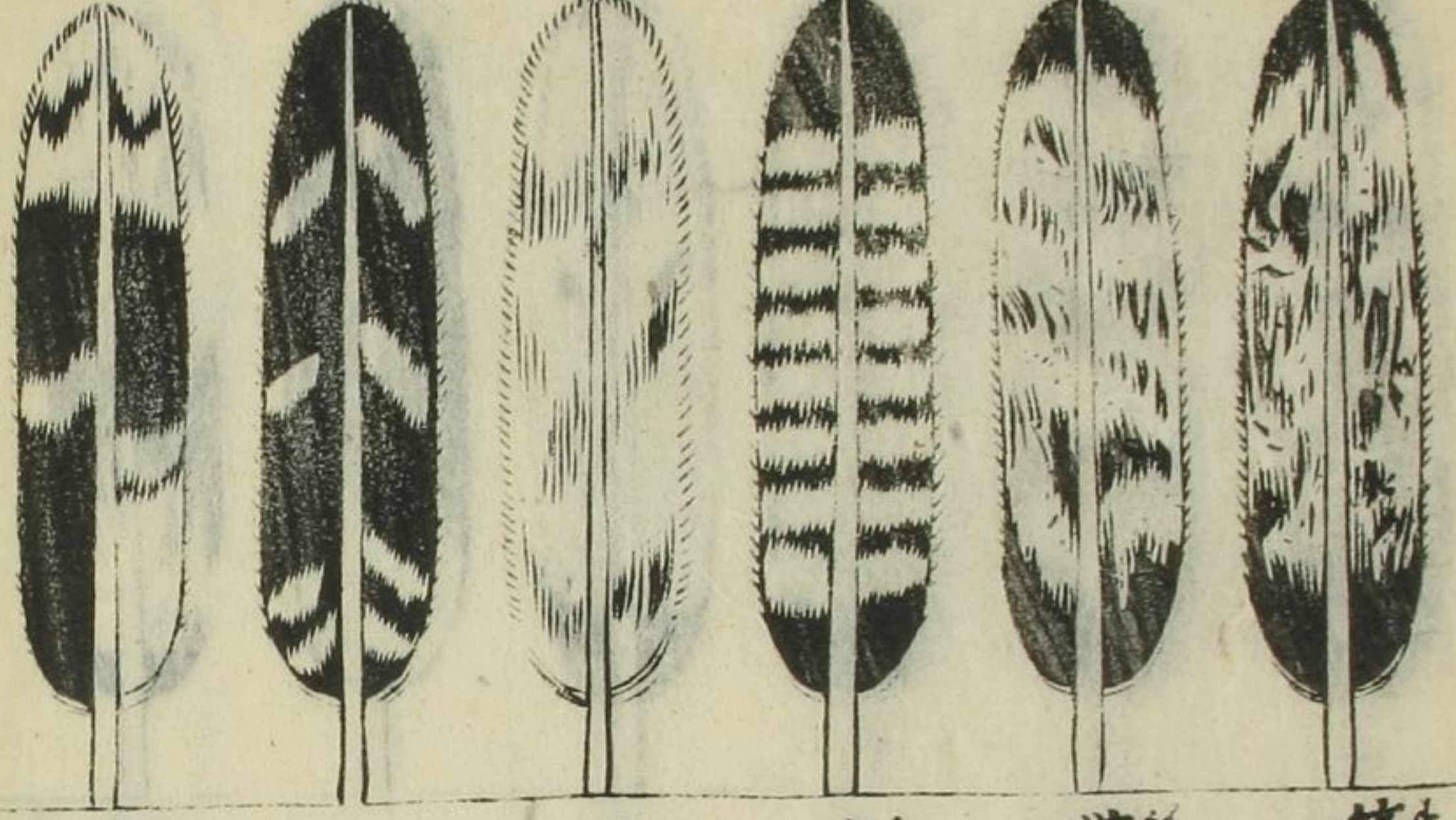
捻生
 豹摺生
 芝摺
 練摺
 四連尾
 小海士之面



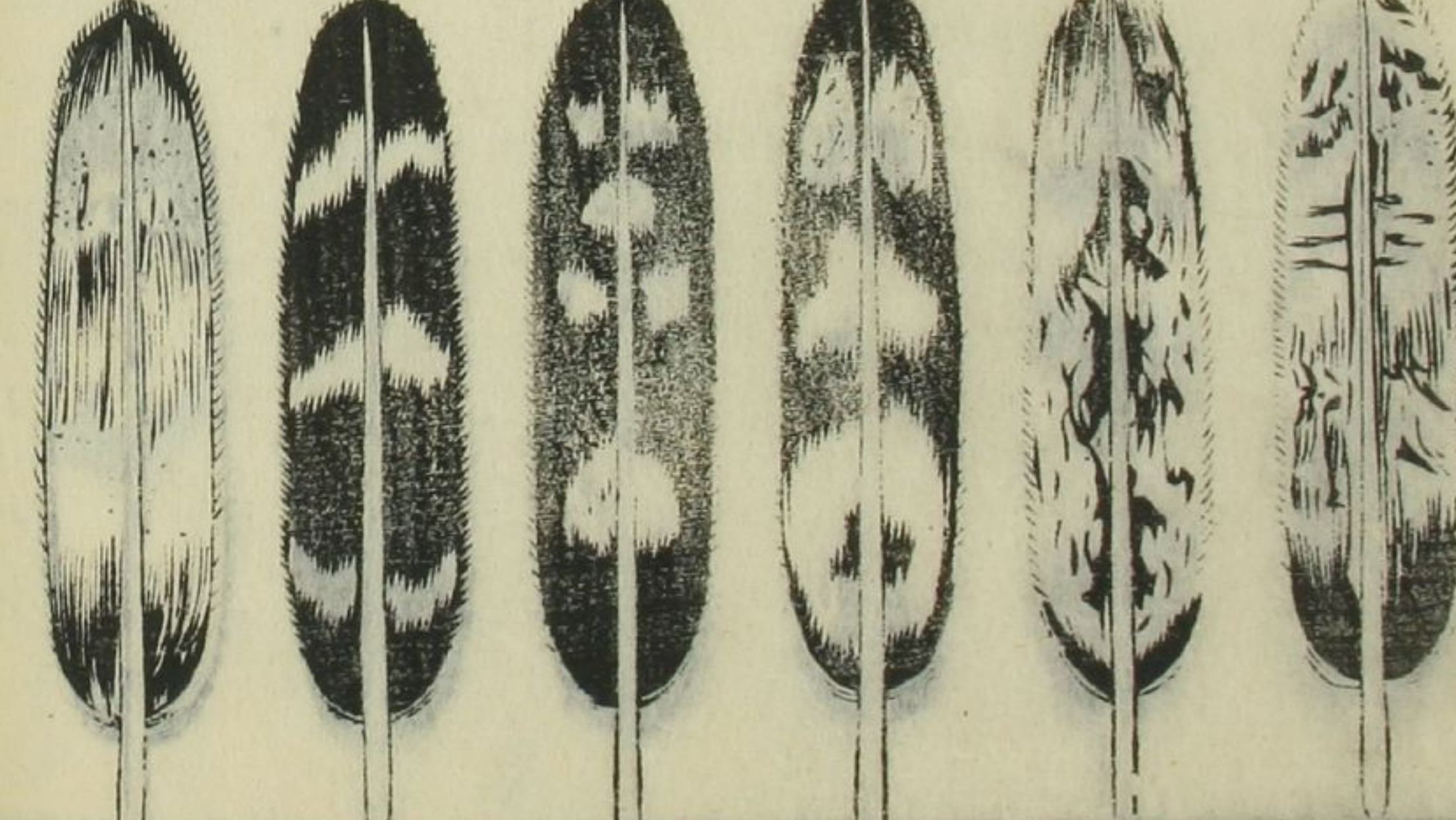
遠山生
 札尾
 洲流
 登尾
 海士羽中
 四連荒

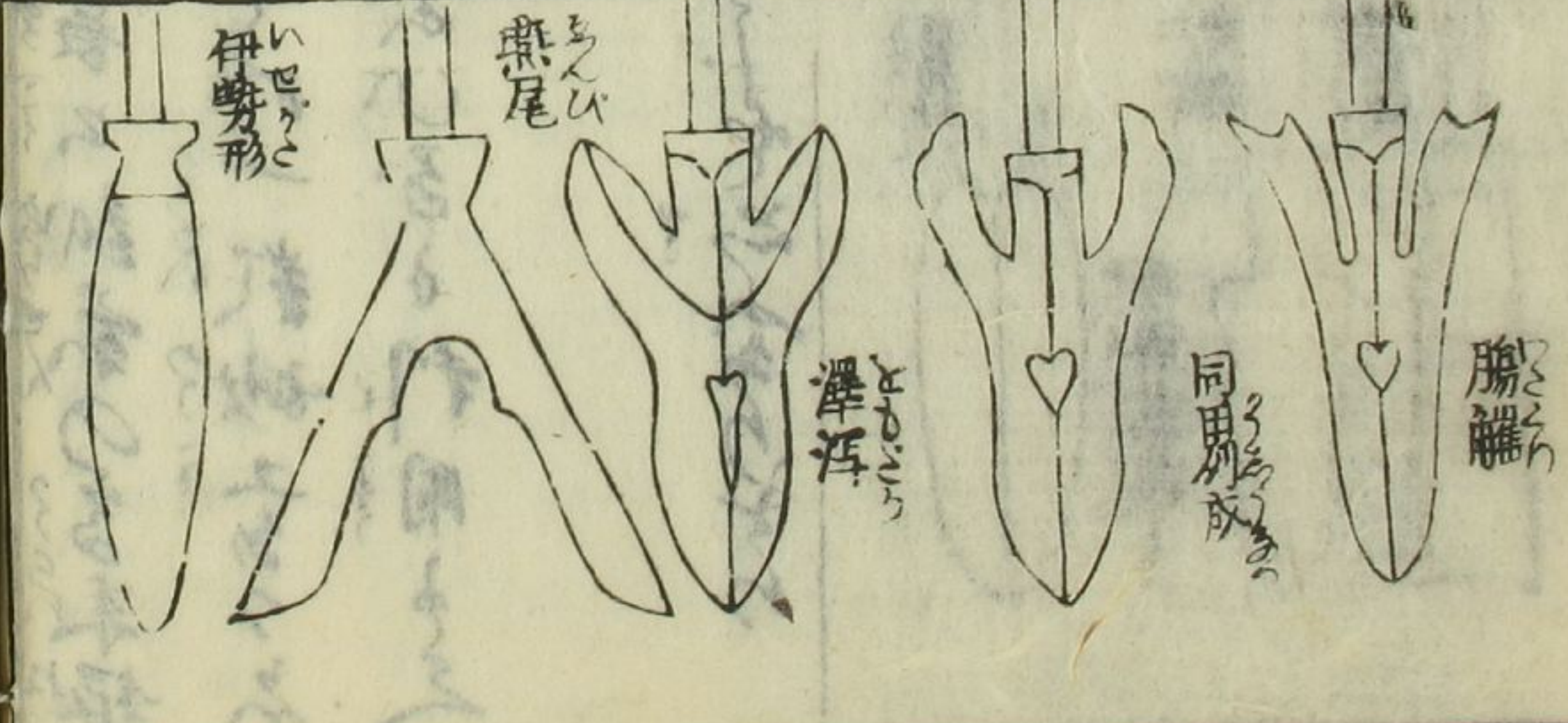
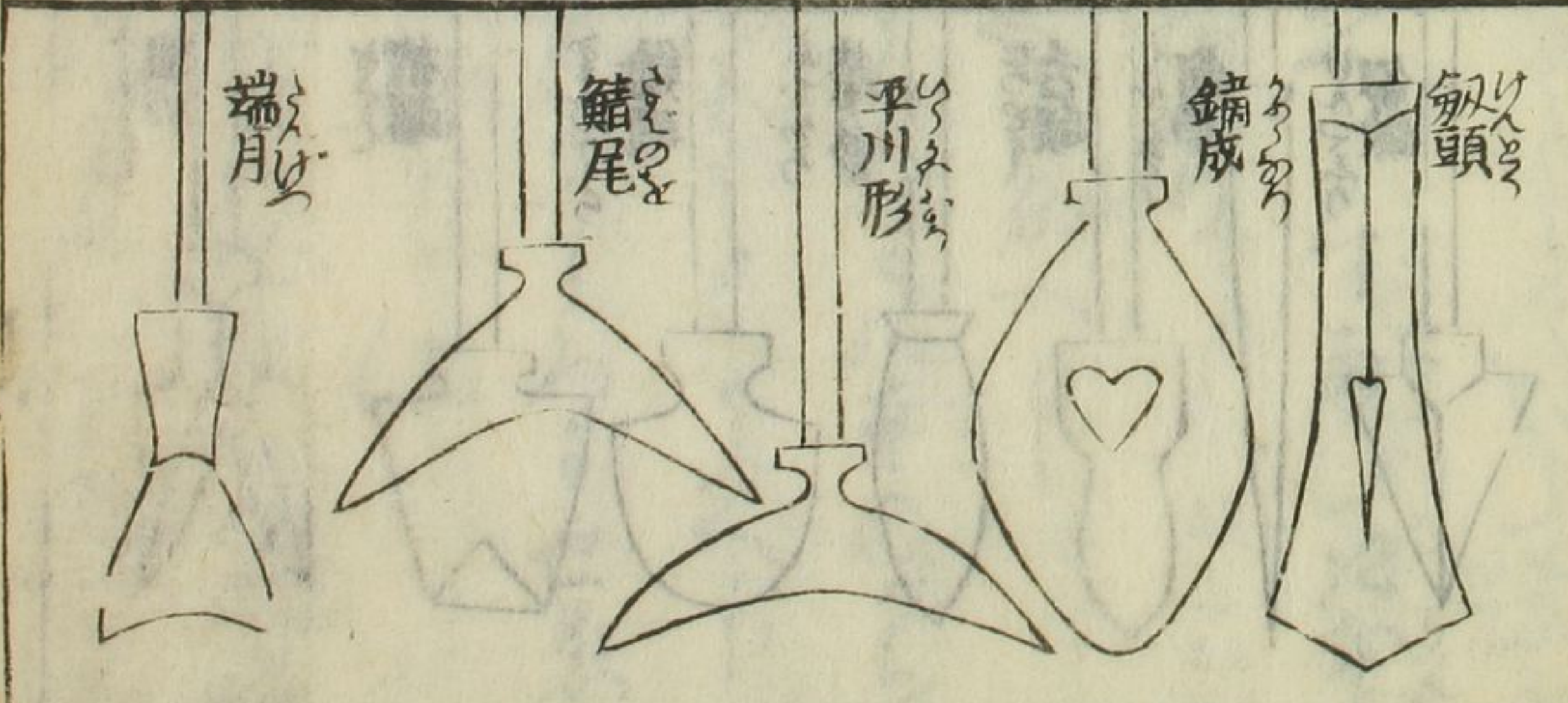
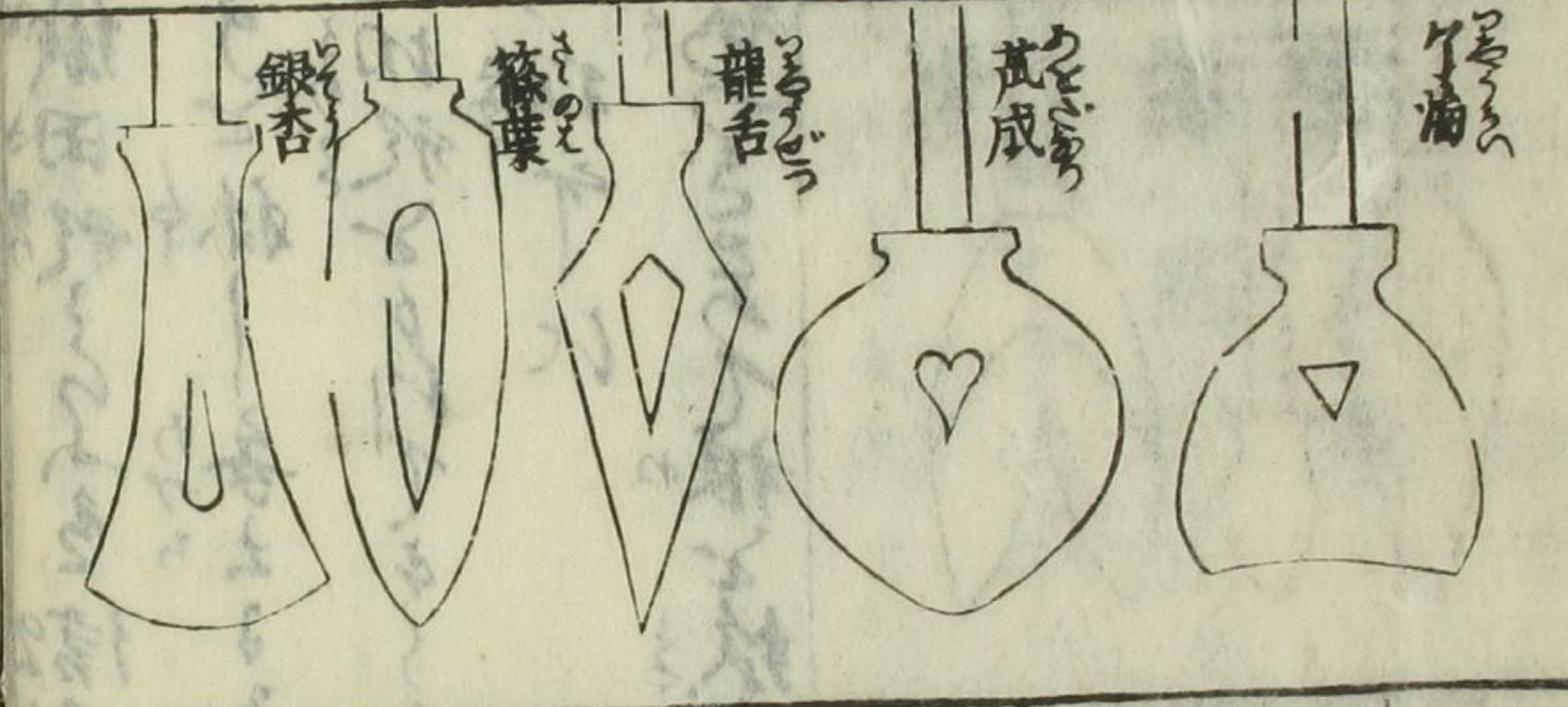
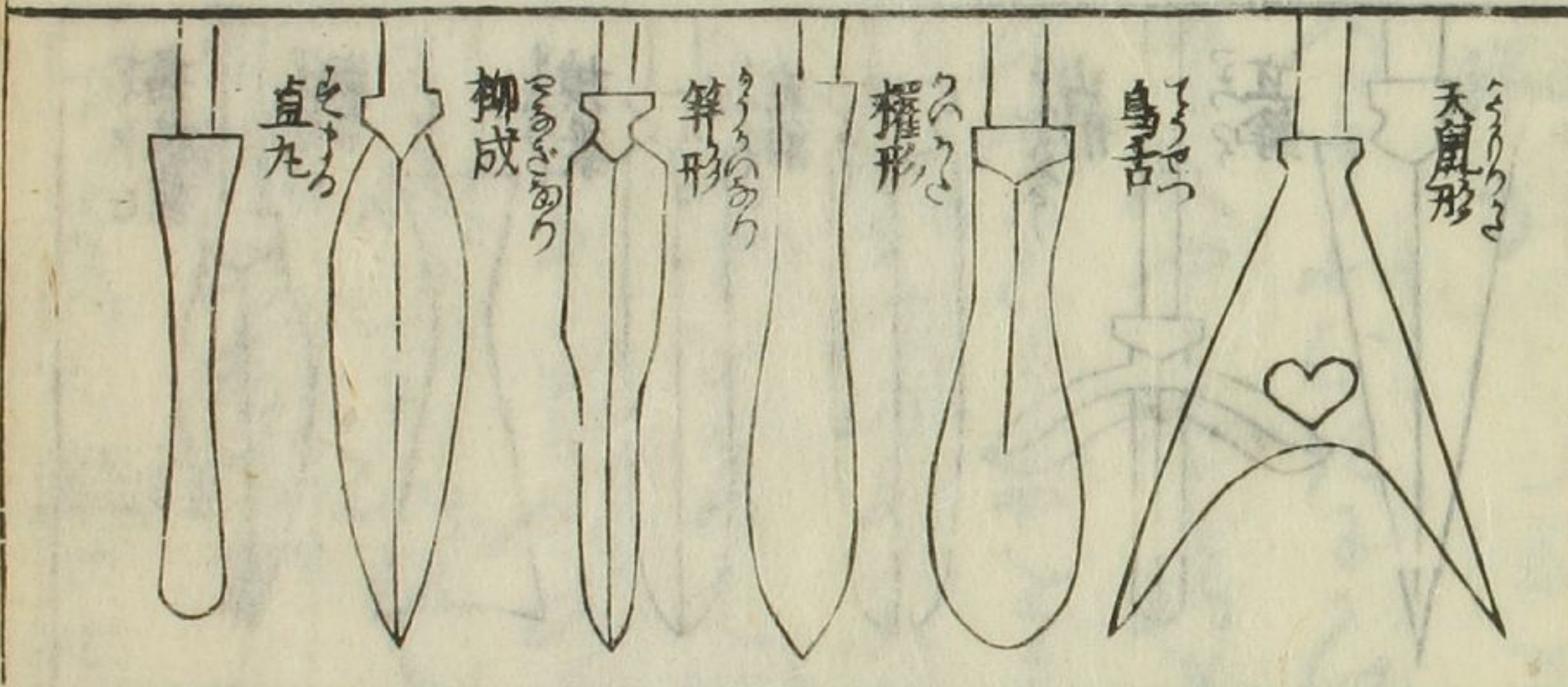
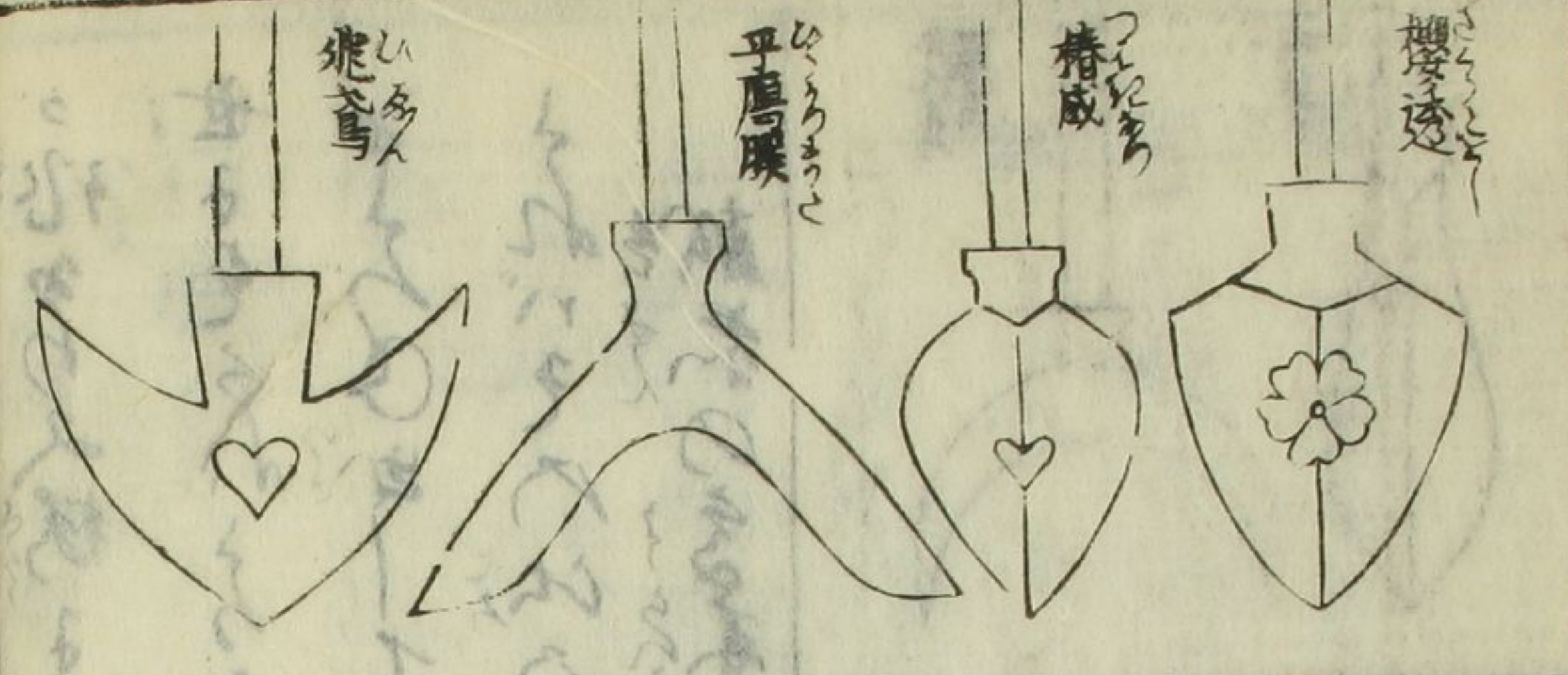
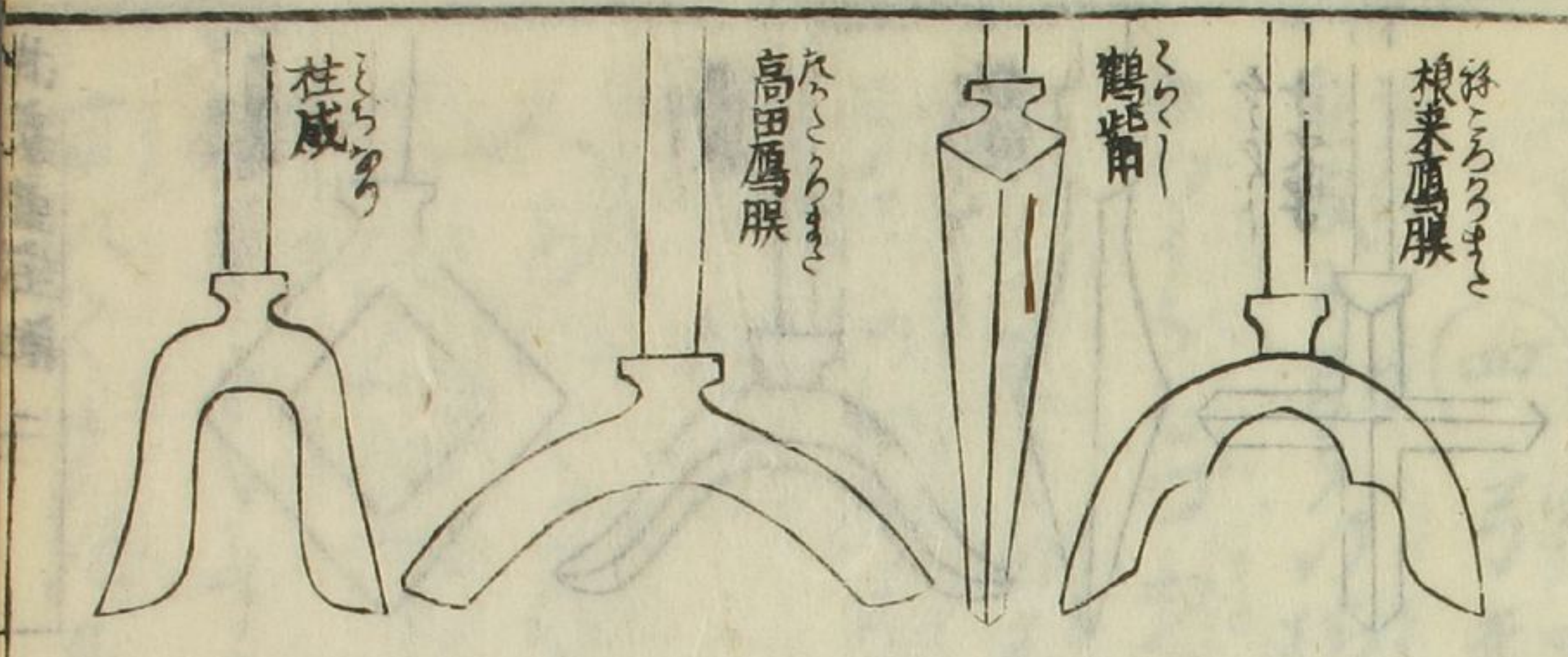


降生
 八文字白生
 細切生
 嶋切生
 波切生
 摺切生



海士之面
 撫生
 星切生
 白切生
 猫切生
 箭切生

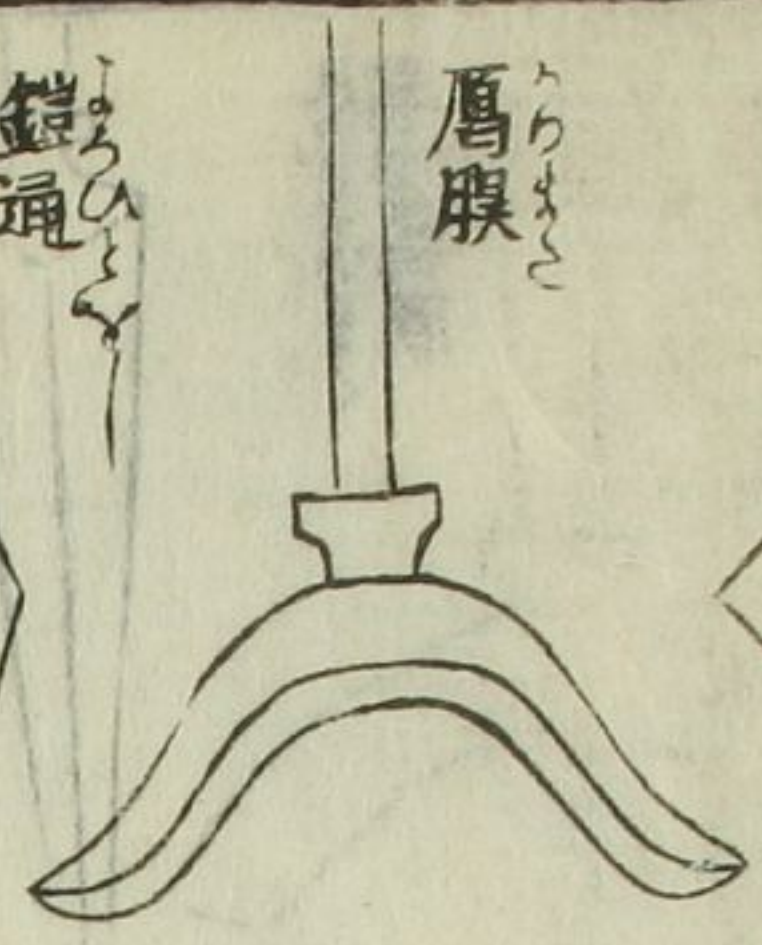




角透



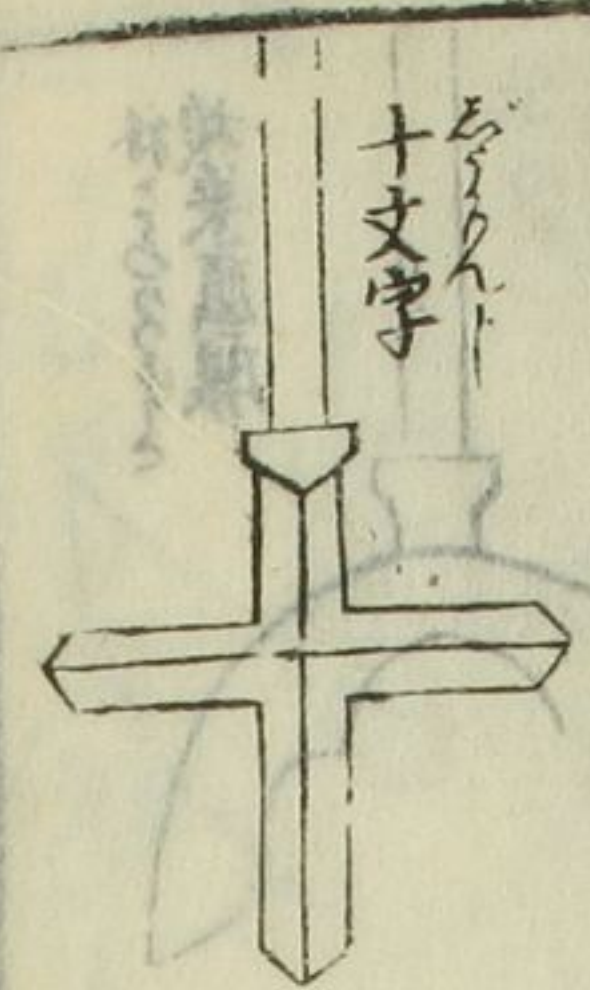
鷹膜



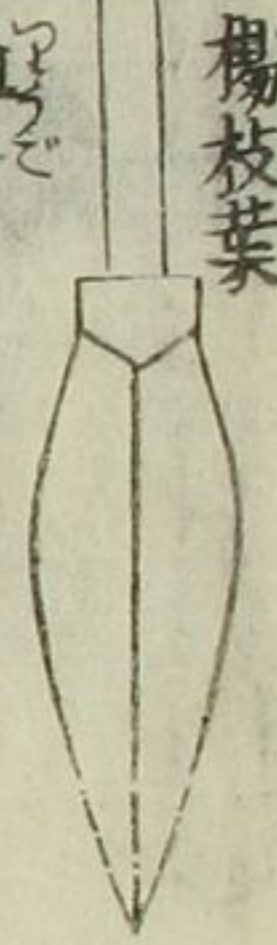
鎧通



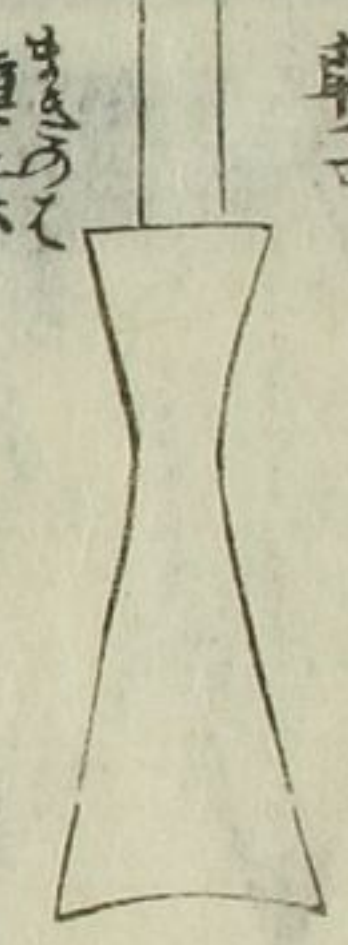
十字字



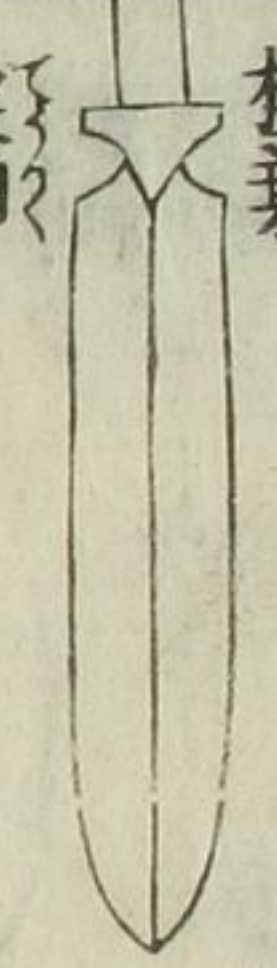
楊枝葉



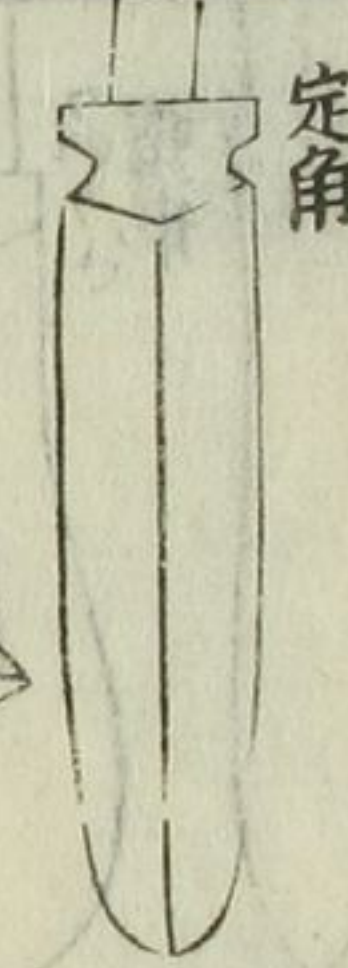
靴子



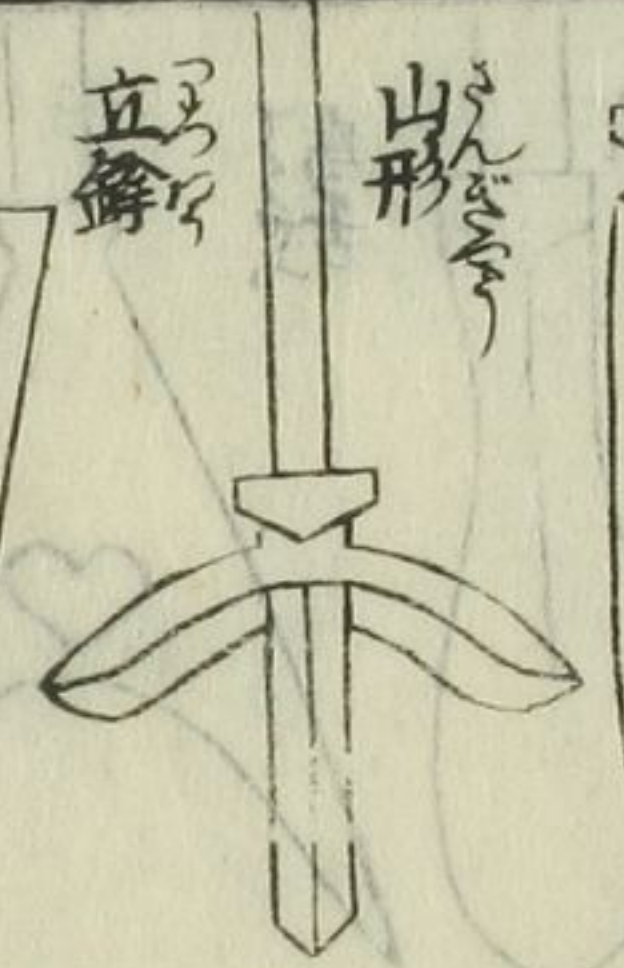
模葉



定角



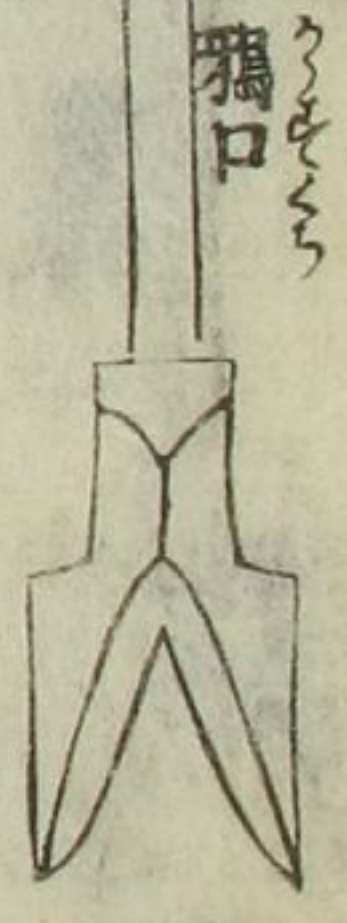
山形



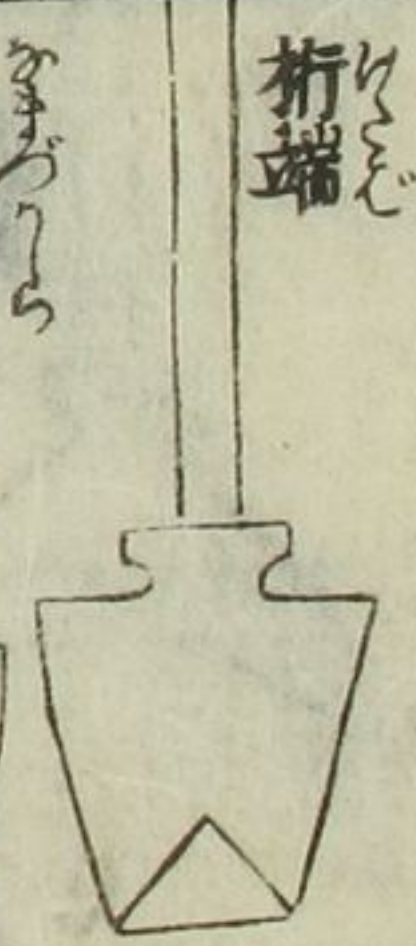
立鋒



鴉口



折端



鯨頭



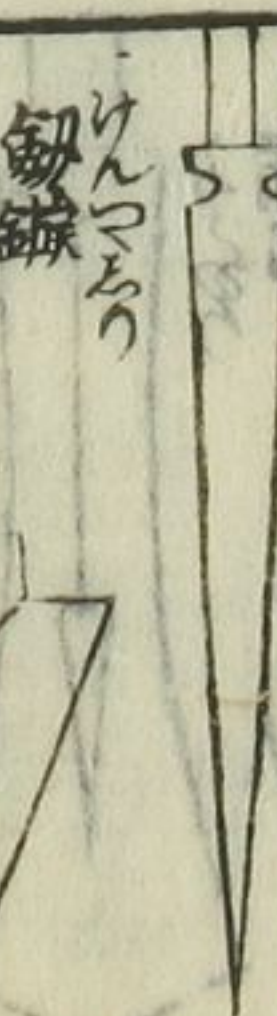
筆形



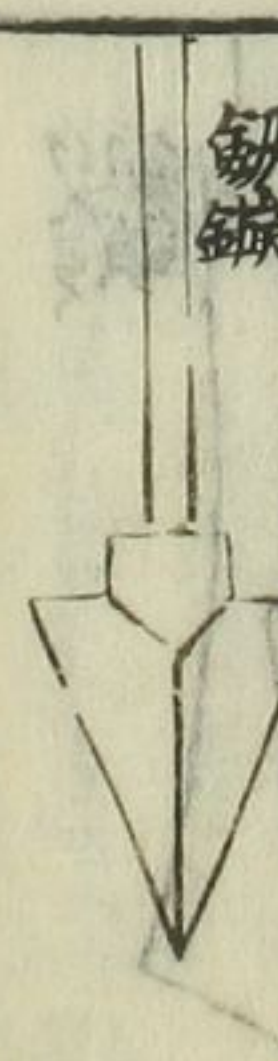
古頭



釘形



劍鏃



四 弓矢辨方

一 在後より弓の柄のすむはじりたるはくすすむはじりたる
 ありうらこづ少くぬやうにありあり
 一 ありごんと日本の時いさく本とくく急べし
 一 弓に何かの弓と知る時のすむふりかこれ幸のころ
 竹しや竹しうえのすとりて何ふしこまき
 一 人かにくるをさうするま人のかとうらうせ
 一 今にんはへしはわいんげんをくじ
 一 撫草さくすや竹のたむすらまたらうたの
 一 可にくまたとひらぬのむぬせけのむつうそいす

一 小色きく屋

一 一の不い夫一 板のすり丸の形の時と子宮の下に又のま
 へるのやう夫とをいへるあう夫の死の時いさうの役とさ
 もあり十一の時下は六上子又い時満夫二また三の時
 弓出さるるさうさうづらうさうづらうさうさうさうさう
 て夫の藤とをいへるかま守と立す引わけとさういふま
 辛苦のあうさういからしていさう死かどのあうと辛苦づ
 したのよとをいへるに終とつたさうとらんじゆと故
 病してさういへる人出さるるさうさういさうさうさうさう
 かりかぬさうとさういへるかま守と立す引わけとさういふま
 一の不い夫一 板のすり丸の形の時と子宮の下に又のま
 へるのやう夫とをいへるあう夫の死の時いさうの役とさ
 もあり十一の時下は六上子又い時満夫二また三の時
 弓出さるるさうさうづらうさうづらうさうさうさうさう
 て夫の藤とをいへるかま守と立す引わけとさういふま
 辛苦のあうさういからしていさう死かどのあうと辛苦づ
 したのよとをいへるに終とつたさうとらんじゆと故
 病してさういへる人出さるるさうさういさうさうさうさう

一の不い夫一 板のすり丸の形の時と子宮の下に又のま
 へるのやう夫とをいへるあう夫の死の時いさうの役とさ
 もあり十一の時下は六上子又い時満夫二また三の時
 弓出さるるさうさうづらうさうづらうさうさうさうさう
 て夫の藤とをいへるかま守と立す引わけとさういふま
 辛苦のあうさういからしていさう死かどのあうと辛苦づ
 したのよとをいへるに終とつたさうとらんじゆと故
 病してさういへる人出さるるさうさういさうさうさうさう
 かりかぬさうとさういへるかま守と立す引わけとさういふま
 一の不い夫一 板のすり丸の形の時と子宮の下に又のま
 へるのやう夫とをいへるあう夫の死の時いさうの役とさ
 もあり十一の時下は六上子又い時満夫二また三の時
 弓出さるるさうさうづらうさうづらうさうさうさうさう
 て夫の藤とをいへるかま守と立す引わけとさういふま
 辛苦のあうさういからしていさう死かどのあうと辛苦づ
 したのよとをいへるに終とつたさうとらんじゆと故
 病してさういへる人出さるるさうさういさうさうさうさう
 かりかぬさうとさういへるかま守と立す引わけとさういふま
 一の不い夫一 板のすり丸の形の時と子宮の下に又のま
 へるのやう夫とをいへるあう夫の死の時いさうの役とさ
 もあり十一の時下は六上子又い時満夫二また三の時
 弓出さるるさうさうづらうさうづらうさうさうさうさう
 て夫の藤とをいへるかま守と立す引わけとさういふま
 辛苦のあうさういからしていさう死かどのあうと辛苦づ
 したのよとをいへるに終とつたさうとらんじゆと故
 病してさういへる人出さるるさうさういさうさうさうさう
 かりかぬさうとさういへるかま守と立す引わけとさういふま

矢喜しむつひのす

一人の心んをこふ
 一流稿馬のいんをこふ
 一四世の世にありて
 一証文のいんをこふ
 一的とてうとあふ
 一切的のいんをこふ
 一のそめりいんをこふ
 一物の貝のいんをこふ
 一霧のいんをこふ
 一しごおのいんをこふ
 一三枚板のいんをこふ
 一差のいんをこふ
 一るいんをこふ
 一犬のいんをこふ
 右に辨して知とつふふふ

出家重宝記 二
 二十
 一人の心んをこふ
 一流稿馬のいんをこふ
 一四世の世にありて
 一証文のいんをこふ
 一的とてうとあふ
 一切的のいんをこふ
 一のそめりいんをこふ
 一物の貝のいんをこふ
 一霧のいんをこふ
 一しごおのいんをこふ
 一三枚板のいんをこふ
 一差のいんをこふ
 一るいんをこふ
 一犬のいんをこふ
 右に辨して知とつふふふ

